

2008年度 大会記録

第10回大会

2008年度は第10回大会を奈良教育大学にて2日間にわたり開催しました。関西での大会開催は、2005年第7回京都大学以来のことでした。講演・シンポジウムには会員以外の一般の方々に加え、大学院生の参加も多く見られました。関西地区でも研究例会が行われるようになり、徐々にではありますが、日本言語政策学会も認知されるようになったのではないかと思います。なお、会場運営においては、いつもながら会場校の教職員、および院生の皆様に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。(山川和彦)

大会テーマ： グローバル化時代の言語教育—欧州の経験は日本社会で活かせるのか？

日 時：2008年11月8日(土) 13:00-17:30

11月9日(日) 10:00-17:00

会 場：奈良教育大学(奈良県奈良市)

総合司会：松川利広(奈良教育大学)

11月8日(土)

13:00-13:15 開会の辞 田中慎也(日本言語政策学会会長)

開催校挨拶 柳澤保徳(奈良教育大学学長)

13:15-14:15 基調講演

European Approaches to Language Policy. Historical and contemporary perspectives

講演者 Michael Byram (Prof. Univ. of Durham, England)

司会 大谷泰照(名古屋外国語大学)

通訳 松浦京子(京都産業大学附属中等高等学校)

14:30-17:30 シンポジウム

Common European Framework of Reference for Languages(CEFR)と日本での応用可能性?

司会 橋内武(桃山学院大学)

A Common European Framework of Reference : learning, teaching, assessment OR a (taxonomic) model of learning, teaching and assessment to which to refer?

Michael Byram (Univ. of Durham, England)

CEFR の批判的「輸入」は可能か

西山教行 (京都大学)

CEFR と「コミュニカティブ・アプローチ」再考—「外国語としてのドイツ語」の事例から考える—

杉谷眞佐子 (関西大学)

CEFR の利用例と今後の応用可能性—大阪大学外国語学部の場合—

真嶋潤子 (大阪大学)

18:00—20:00 懇親会 生協食堂

11月9日 (日)

10:00—12:00

【101 教室】

司会 細谷美代子 (筑波技術大学)

- (1) 事例研究 タイ・プーケット島における言語景観—観光地の多言語化研究の一例として
山川和彦 (麗澤大学)
- (2) 事例研究 言語選択・国際化・共生に対する二面性—浜松市の地域住民と日系ブラジル人の場合—
杉野俊子 (防衛大学校)
- (3) 事例研究 ブータン王国の言語政策—現状と課題—
西田文信 (麗澤大学)

【102 教室】

司会 李 守 (昭和女子大学)

- (1) 研究発表 英語教育と国語教育の連携に関する一考察
五十川敬子 (立命館大学)
- (2) 研究発表 家庭環境・社会環境に起因する英語力格差とその世代間変容
寺沢拓敬 (東京大学大学院生)
- (3) 研究発表 我が国の外国語教育への提言—韓国の外国語教育政策に鑑みて—
塩見千夏 (関西大学大学院生)

【104 教室】

司会 佐々木倫子 (桜美林大学)

- (1) 研究発表 日本の対外政策からみた中国語教育の変遷—中国語教科書にあらわれる文字表象の政治性—
張伶華 (京都大学大学院生)
- (2) 研究発表 言語権概念の批判的検討
かどやひでのり (津山工業高等専門学校)
- (3) 研究発表 日本語教育のあり方を考える—フランスの言語政策と対比して—
山口雅代 (名古屋外国語大学大学院生)

13:00—13:30 総会

13:30—14:30 基調講演 「国語教育と日本語教育をめぐって」

講演者 水谷修 (名古屋外国語大学)

司会 細川英雄 (早稲田大学)

14：40－16：50 パネルディスカッション

「これからの国語教育と日本語教育—言語力育成の観点から、両者の関係を考える—」

日本の言語教育政策・計画を考える

国語教育、日本語教育を出発点として一求められる言語能力とは何か

水谷修（名古屋外国語大学）

「国語教育（国語科教育を含む）」と「日本語教育」をつなぐ「言語力」

松川利広（奈良教育大学）

「国語教育」「日本語教育」の連携と、その複合的な能力育成をめざして

宮崎里司（早稲田大学、司会）

16：50－17：00 閉会の辞

杉谷真佐子（日本言語政策学会副会長）

関東地区大会

言語政策の目標は「人づくり」であり、人と人をつなぐ「社会づくり」である。「言語政策」が生命をもつためには、「政策」の理念が教育理論／教育実践と深く結びつく必要がある。教育学、法学、企業の社会貢献、関連行政、国際移住支援、移民政策と各界最前線で活躍するエキスパートが参集。佐藤学氏の基調講演に始まり移民社会の招来を視野に入れたシンポジウムまで、日本語および日本語教育に付託する思念の差違が鮮明に示された。

日本語を言語のひとつと捉え言語教育の双方向性を通して日本語運用能力に「国際性」を獲得する、日本語を「国語」の上位概念に置き、外国人とのコミュニケーション機能も重視した「共通日本語」を創出する…など、日本語教育政策／言語政策に対する具体的指針が示された。これら発題内容が、フロアとの質疑応答も含め、交響することによって生み出された成果は、一般参加くださった方からの声もあり、出版物として刊行されることになった。

この大会に参加、協力くださったすべての方々に深謝。 (木村哲也)

大会テーマ：国際コミュニケーション能力としての日本語力とは

日 時：2008 年 6 月 14 日（土）12：50－18：30

会 場：早稲田大学

総合司会：飯野公一（早稲田大学国際教養学部）

12：50 開会の辞 田中慎也（日本言語政策学会会長）

13：30－14：30 基調講演 「リテラシー概念とその教育」
講演者 佐藤 学（東京大学大学院教育学研究科長、日本教育学会会長）

14：45－16：15 講演 「グローカリゼーションと言語政策の第三の道」
講演者 桂木隆夫（学習院大学法学部教授）

16：30－18：30 シンポジウム 「外国人との共生と日本語」
司会 木村哲也（杏林大学外国語学部）
パネリスト 坂中英徳（外国人政策研究所所長）
柴崎敏男（三井物産 CSR 推進部）
中野 敦（文化庁文化語国語課専門職 [日本語教育]）
中山暁雄（国際移住機構 [IOM] 駐日代表）（五十音順）